

20171105 「エジプト脱出」

目標： 暗唱聖句の背景に過越の出来事があることを知り、その贖いの内容を掴むことを通して主イエスを見上げる。

聖書箇所： 出エジプト記11章1節～12章42節 時間： 10分

暗誦聖句： 「ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを診ていった。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』」（ヨハネ福音書1章29節）

道具： ホワイトボード、ペン

対象者： 中3×1 中1×1 小6×1 小5×3 小3×1 小2×1 小1×2 幼稚園児×2

留意点： 内容が多いので、過越の前に起きた10の災いなどは触れるだけに留め、新約の御言の解き明かしとして本時を展開する。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	今回の御言は、バプテスマのヨハネがイエス様が自分の方に来られるときに語ったのですが、どういう意味だと思いますか。		文節ごとに分けて考えさせていく。その中で、なぜ小羊と罪の赦しに関係するのかという点に気づかせたい。
課題探究	6分	<p>ずっとモーセの物語を見てきていますが、実は本日の箇所に、このヨハネの御言が解るようになるための鍵があるのです。</p> <p>モーセは神様に召されて、イスラエルの人々をパロの元での奴隷の生活から救い出す為に、様々な奇跡を起こしたのです。</p> <p>その最後、神様は、全ての初子の男子を殺すことにしました。</p> <p>しかし、イスラエルの人々にはそのような事が起きないように、災いが過ぎ越すすべとして小羊の血を玄関と鴨居に塗るよう命じたのです。</p> <p>その夜は、特別に小羊の肉を食べることになりました。</p> <p>その夜、エジプト全土に叫び声がありましたが、イスラエルの人々の家には、悲劇は一つも起きませんでした。小羊の血が流された家は、災いが過ぎ越していったのです。</p> <p>小羊の血が流されたところでは命が救われたというこの事は、なにかと似ていませんか。</p> <p>バプテスマのヨハネが主イエスを神の小羊と呼んだのは、それではどういう意味になるでしょう。</p> <p>モーセは動物の血でイスラエルを救ったのですが、イエス様はご自身の血で全世界の人を救いました。ですから、本当の過越は、イエス様の十字架だと言われています。</p> <p>過越の食事も、本当の過越の食事は、あの最後の晩餐だと言えるのです。</p> <p>過越の羊がいなければイスラエルの人々も死んでいたことでしょう。でも、身代わりに慣れ絵と言われたら、うれしい人はいないのではないでしょうか。「イエス様が私達の過越の羊になって下さった」というのはとても重みのある言葉なのです。</p>	<p>・イエス様</p> <p>・解らない</p> <p>・解らない</p>	<p>罪と小羊との関係について注視させ、本論に入る。</p> <p>前回（当教会では前々回）までの復習。</p> <p>既に内容を知っている子供がいたら、説明させてみるのも良い。</p> <p>鴨居を知らない子供がいるので、実演して印象づけたい。血の臭いなどに言及すると、リアリティが上がると思われる。</p> <p>後に過越祭また最後の晩餐に繋がっていくので、ここで言及しておく。</p> <p>教会に長く来ている子であれば、何とか繋がってほしい。主イエスキリストの十字架と似ているのである。もし難しければ、教師から提示する。それで大抵の子供は気づくはずである。</p> <p>これは普通の子供の常識と比べ飛躍していると思われるので、出にくいだらう。しばらく考えさせて、教師から提示する。イエスが過越の羊のように殺されて、それによって多くの人々が救われると彼は語ったのである。十字架など全く誰も予想出来ない早い時期にである。</p> <p>バプテスマのヨハネのすごさは本題ではないので、触れないように気をつける。過越は主イエスにおいて成就したのだが、「成就」と言う言葉は難しい。別の言葉で解りやすくし、聖書全体が主イエスに繋がっていることを感じさせられたら良い。</p> <p>過越の食事は後聖餐に展開するのだが、今回は割愛し、触れない。</p>
まとめ	2分	暗誦聖句		190号のテーマ「神の恵みに生かされる」からの反映。